

大学の世界展開力強化事業 構想概要 早稲田大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅱ)SENDプログラム)

「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業

【プログラムの目的・養成する人材像】

国内外の日本語学習者・学習ニーズの多様化に対応した教育プログラムを構築し、人物交流・人材循環を起こして多様な日本語学習者に対応できる日本語教育者および実践的日本語運用能力を身に付けて幅広い分野で活躍する人材を養成する。

【構想の概要】

日本語教育学を主専攻・副専攻とする学生に対して海外日本語教育実践の機会＝海外実習を提供するとともに、海外教育機関の日本語学習者に対して実践的日本語教育を提供することを通じて双方向の学生交流を促進する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 共同プログラム委員会の設置

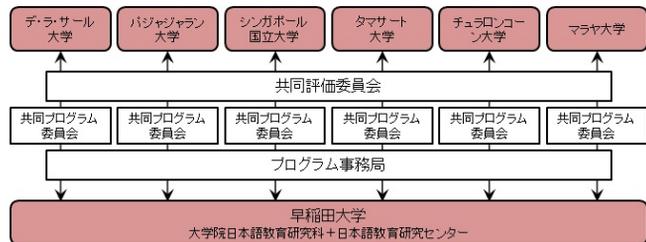
早稲田大学と各交流相手大学との間に「共同プログラム委員会」を設置し、カリキュラム、参加学生のケア、事業評価について協議する。

○ 厳格な成績管理と単位相互認定

到達目標、成績評価方法等をシラバスを通じて事前に学生に公開するとともに、学生授業評価を取り入れる。また、学生交流を通じて取得する単位の相互認定を促進する。

○ プログラムコーディネーターの配置

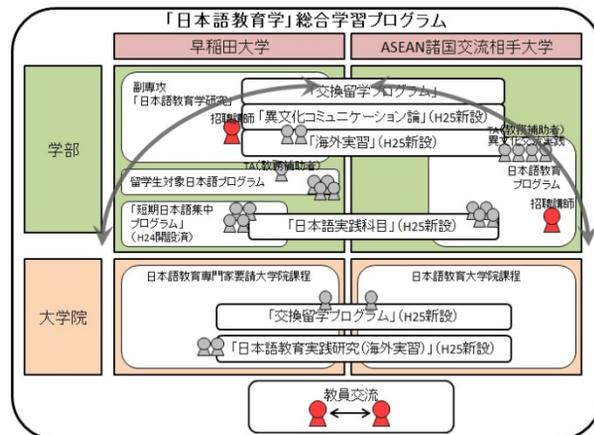
国内外の日本語教育機関で豊富な経験を有する教員をコーディネーターとして配置し、交流相手大学との調整、参加学生の学習指導・管理を担う。



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

○ 「日本語教育学」総合学習プログラムの構築

参加大学の大学院・学部にて日本語教育学を主(副)専攻する学生に対して①大学院レベルでは「日本語教育学実践研究(海外実習)」の科目設置、②学部レベルでは副専攻「日本語教育学研究」に「異文化コミュニケーション論」「海外実習」の科目設置、③日本語を海外で学ぶ学部生を対象とした「日本語実践科目」を設置し、それぞれの科目受講者を相互に派遣・受入する学生交流を実施する。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

海外教育実践を組み込んだ大学院科目「日本語教育学実践研究(海外実習)」の受講生を派遣する。また、全学共通副専攻「日本語教育学研究」に設置する「海外実習」を履修する学部生を派遣し、日本語・日本文化教育実践を行う。

○ 外国人留学生の受入れ

日本語教育学を専攻する大学院生を受入れ、早稲田大学の日本語科目TAとして教育実践を経験する機会を提供する。また、海外大学の日本語学習者を超短期で受け入れ、実践的な日本語運用能力を養う。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	0名	70名	70名	70名	70名
学生の受入	0名	64名	64名	64名	64名

(注)申請時の計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ アカデミックカレンダーの相違に配慮した海外派遣時期の設定

早稲田大学と交流相手大学とのアカデミックカレンダーの違いを考慮し、2月上旬～3月上旬、7月末～8月末という2つの派遣期間を設定する。

○ 来日前のサポートおよび来日後・帰国前のオリエンテーションの実施

受入学生に対して、渡日準備の支援から来日後の生活・学習支援のためのオリエンテーションの開催、帰国前には取得単位の認定等に係る手続き等に関するオリエンテーションを開催する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ウェブサイトでの情報発信および国際的コンソーシアムでの成果公開

本構想参加大学の紹介、詳細なプログラム内容、参加した学生の体験レポート等をウェブサイトを通じて公開するとともに、早稲田大学が加盟する国際的コンソーシアムが開催する国際会議の場を通じて成果公開を図る。